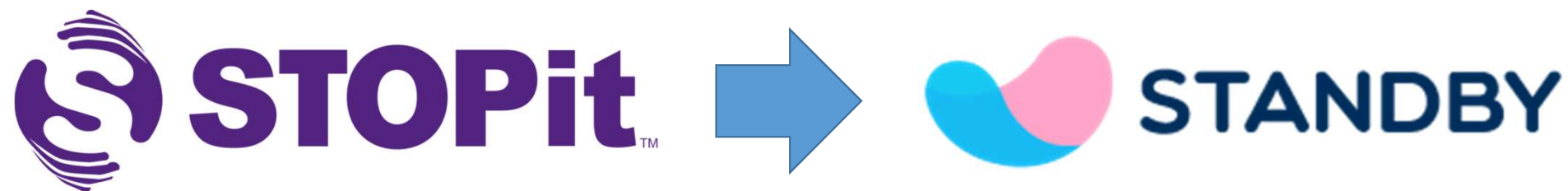


柏市における 『STANDBY』の取組について

～総合教育会議資料（令和4年8月29日）～

柏市教育委員会 児童生徒課



「ストップイット」から「スタンバイ」へ

令和4年度 名称変更

STOPit 導入の経緯

匿名いじめ相談・報告アプリ

H29 6月～運用開始

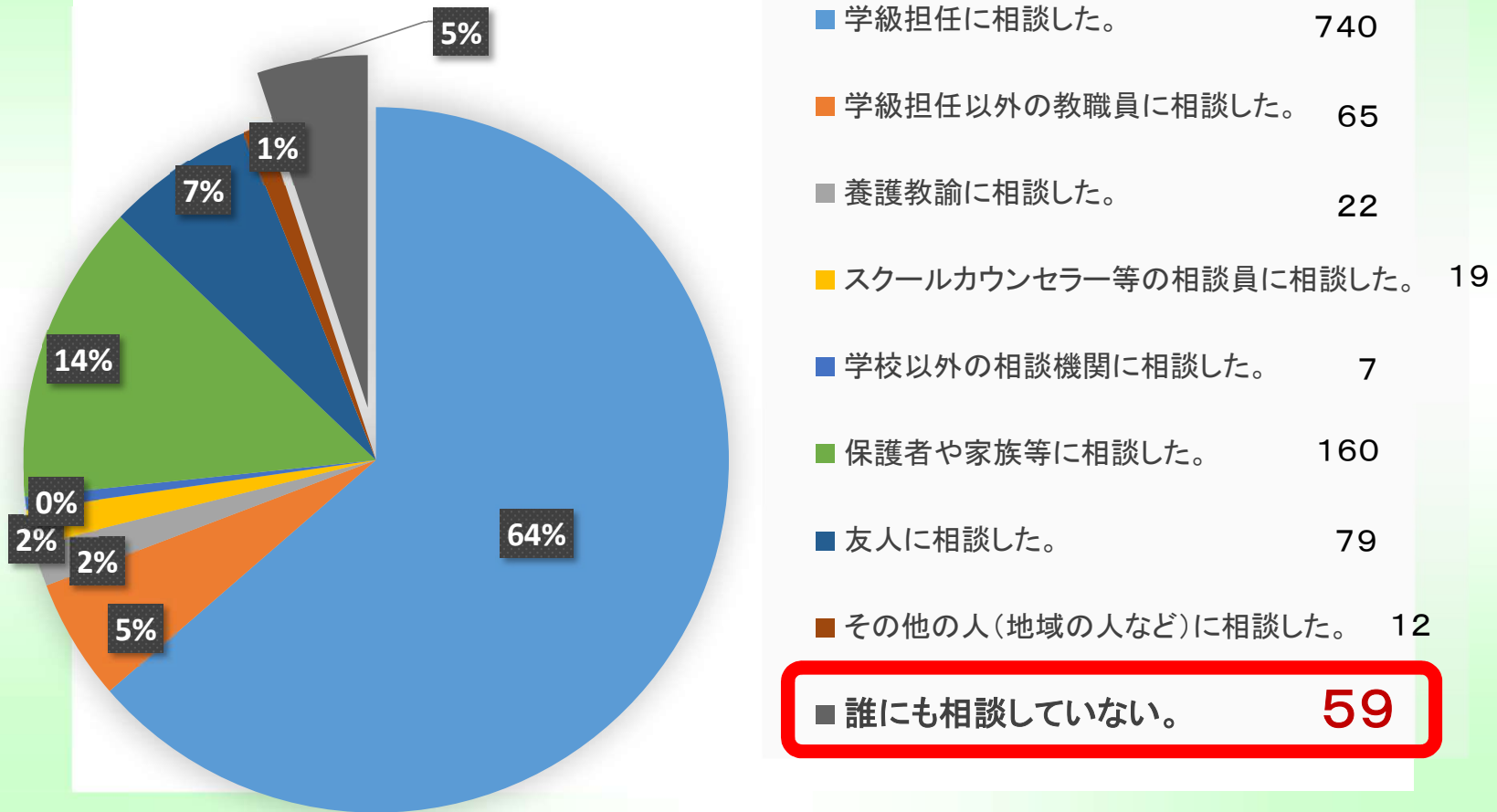
柏市いじめ防止基本方針改訂の基本理念

「子供がいじめを苦に自らその尊い命を絶つ
ような事態は何としても防がなくてはならない」



いじめられた生徒が
「誰にも相談できない」状況の
セーフティネット

いじめられた生徒の相談状況(中学校)



5%の

「相談していかない」

相談することができない

相談する相手がいない

生徒を1人でも減らしたい

ネットいじめ問題の現状と課題（当時の課題認識）

○全国的にネットいじめによる自殺が発生し続けている

○柏市では中1のいじめの認知件数が多い



○深刻な事態になる前に予防・介入することが大切



○ネットいじめは可視性が低く、早期発見は困難

・ネットパトロール ・ いじめeメール相談 ・ いじめアンケート等は実施しているが・・・



傍観者を生まない新たな手立てを

The logo consists of two overlapping circles, one light blue and one light pink, positioned to the left of the text.

STANDBY 取組の概要

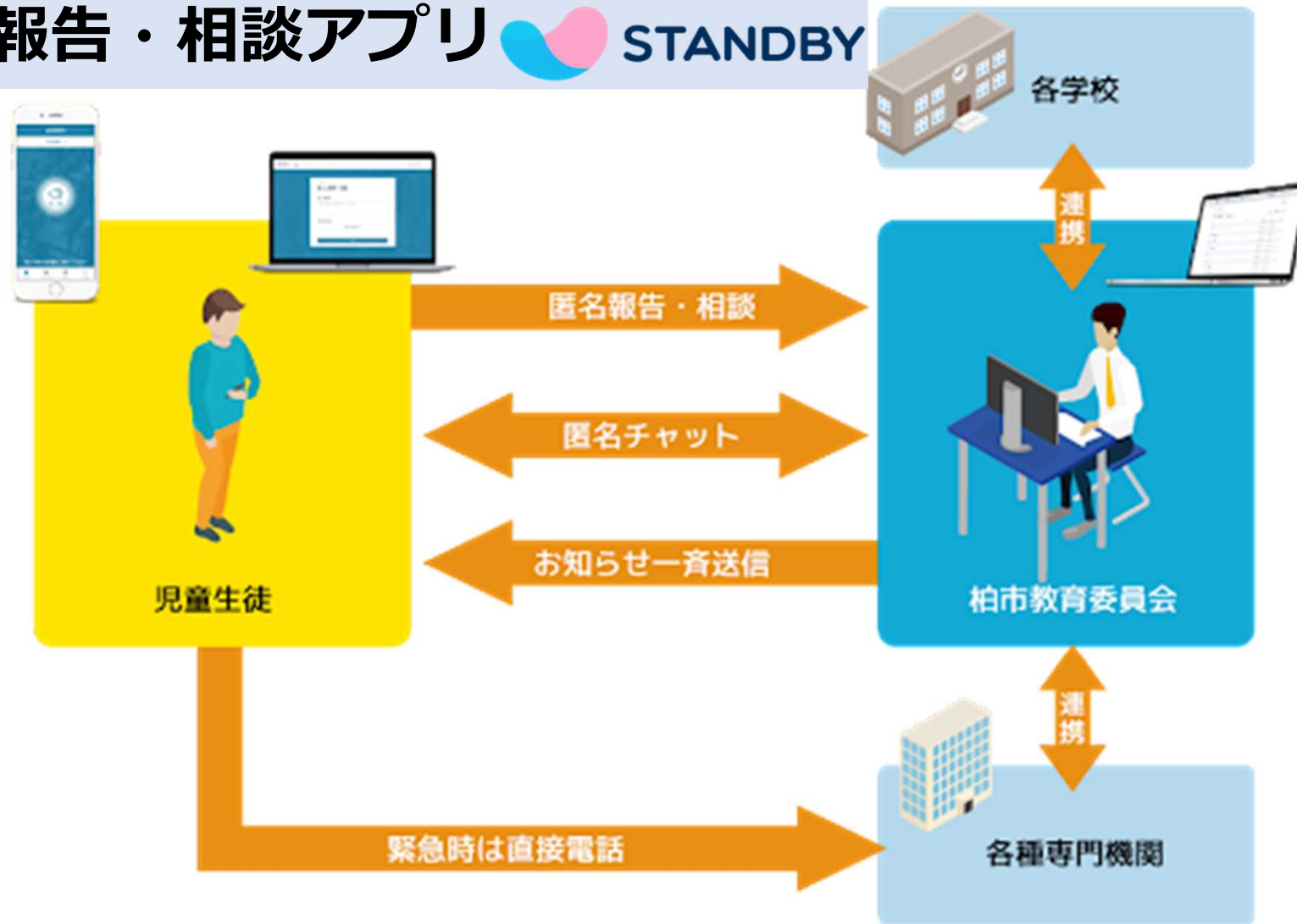
対象

市立全中学校 21校 全学年（平成29年6月～）

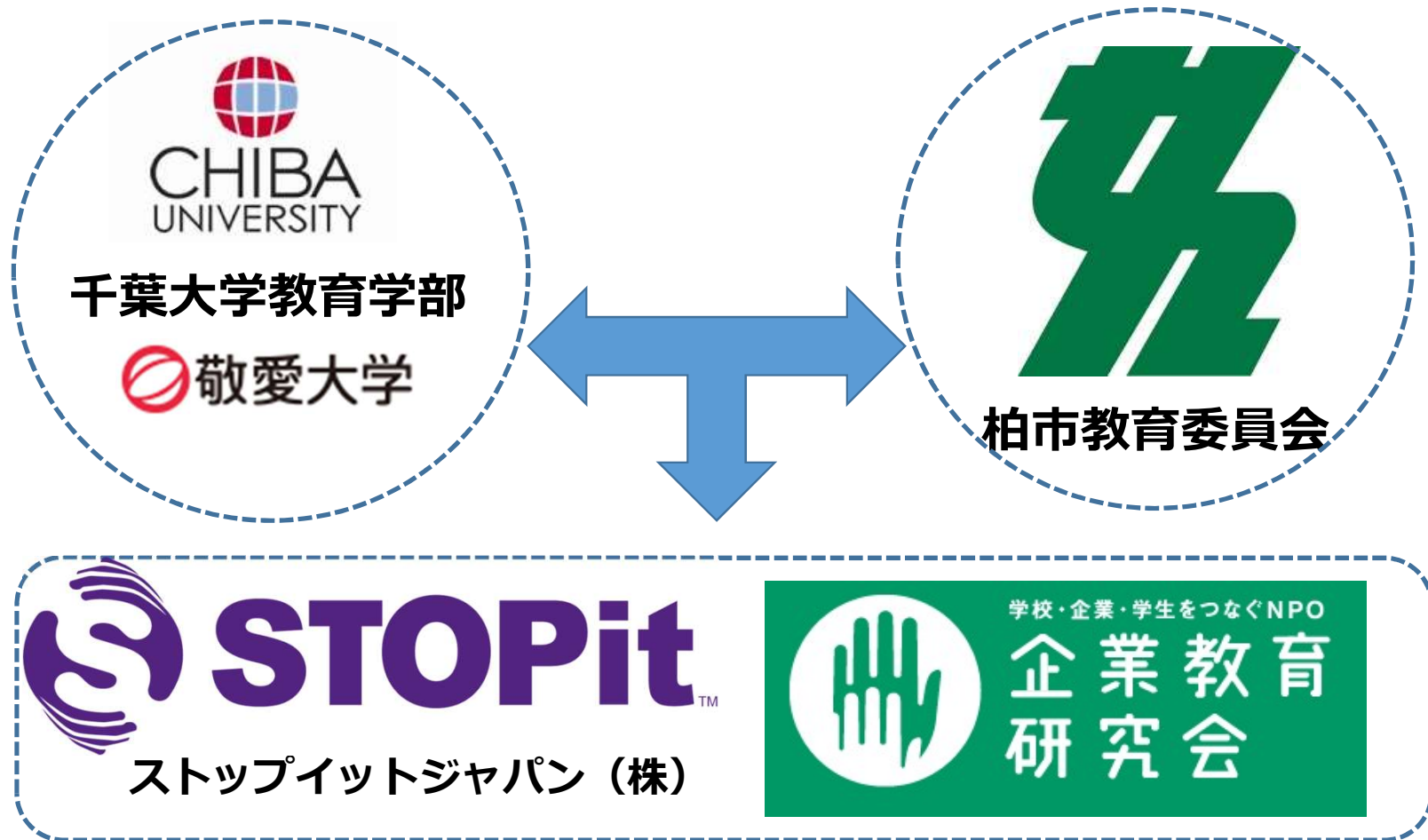
市立全小学校 42校 6年生（令和2年4月～）

市立柏高等学校（令和4年6月～）

報告・相談アプリ STANDBY



産官学連携による「脱いじめ傍観者教育」を テーマとした授業の実施



脱いじめ傍観者教育

エピソード1「変えられる!? クラスの空気～脱いじめ傍観者教育」は、いじめの加害者と被害者ではなく、まわりで見ている観衆や傍観者の存在に着目したプログラムです。クラスにいじめを止める雰囲気がある場合にはいじめを止める行動をとるとする人が多いという研究成果(※1)を基に、観衆や傍観者だった者がいじめを止める行動をとれるようにすることをねらいとしています。

※1: 藤川大祐・青山郁子・五十嵐哲也, 「ネットいじめの芽における小中高生の傍観者行動と文脈要因の違いにおける差の検討」, 日本教育工学会第32回全国大会講演論文集, 2016, pp.663-664.



ネットいじめを許容しない集団の雰囲気醸成するための授業

傍観者の視点でいじめを考え，議論する授業の実施
市内全中学校 第1学年 全クラス



相談・報告しやすいアプリの提供

◎いじめを許容しない雰囲気の醸成
○早期発見 ○抑止力

予防・介入により深刻な事態を防ぐ

授業 ⇒ 報告・相談しやすいアプリの紹介

相談できない子供に対して

- ・セーフティネットの1つ

傍観者に対して

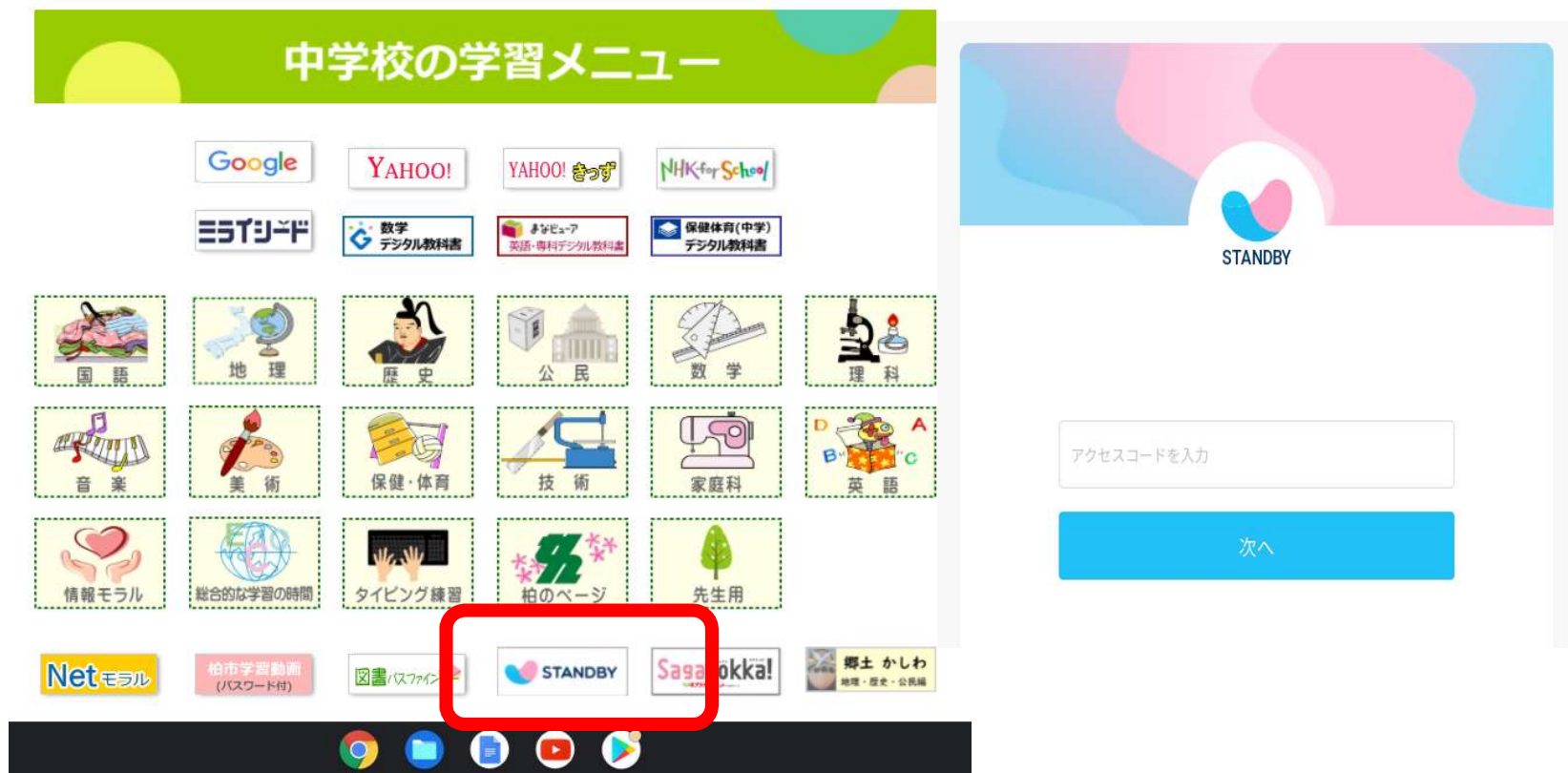
- ・解決方略の1つ

「STOPit」の導入

シンプルですばやく、匿名で報告・相談できるアプリ

- アメリカでは、約6000校、332万人が利用
- アメリカ、日本、ニュージーランド、南アフリカ共和国、オーストラリア、カナダの6か国で展開
- 世界を変えるための役立つアプリ5選(CNN)
- 公立学校での導入は日本初（私立は3校導入済み）

1人1台端末の「学習メニュー」



⇒対象全児童生徒が使える環境へ

相談従事者

【児童生徒課】

課長 統括リーダー 指導主事兼精神保健福祉士

指導主事 学校心理士

- ⇒ いじめの解決に向けて学校と連携する
- ⇒ いじめ防止の授業や講演会を実施する
- ※ やりとりの内容は6人で確認する

【少年補導センター】

所長（兼児童生徒課長） ・ 指導主事

- ⇒ 啓発講演の実施

相談を受けた際の対応について

【相談時間】

- ・ 対応時間（基本）

平日 8 : 3 0 ~ 1 7 : 1 5

※ 2 4 時間対応可

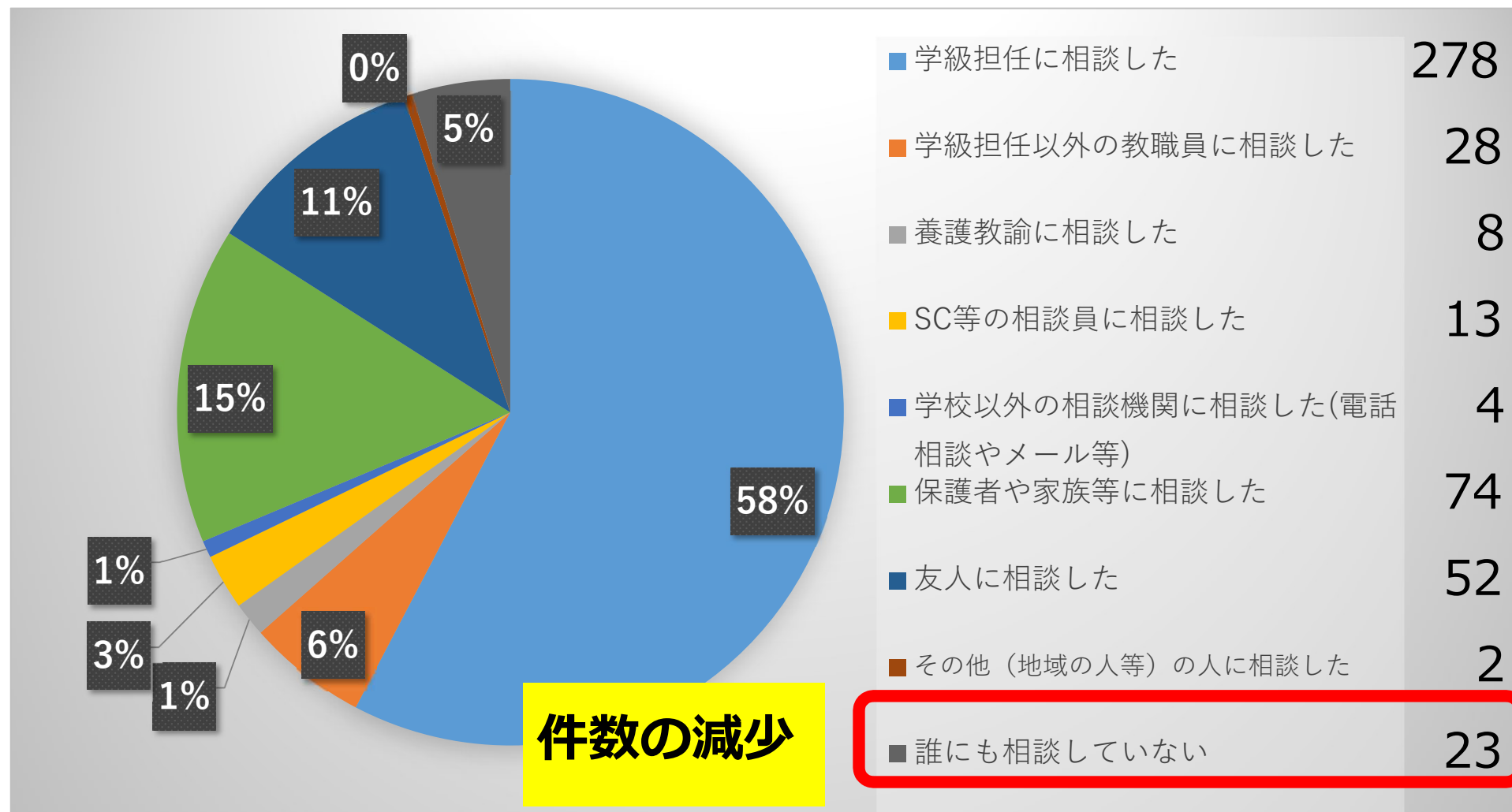
※ 管理職にメールが届き，内容を確認
できるようになっている。

※ 時間外には，自動で
「翌日以降の確認となります」
というメッセージが送信される。

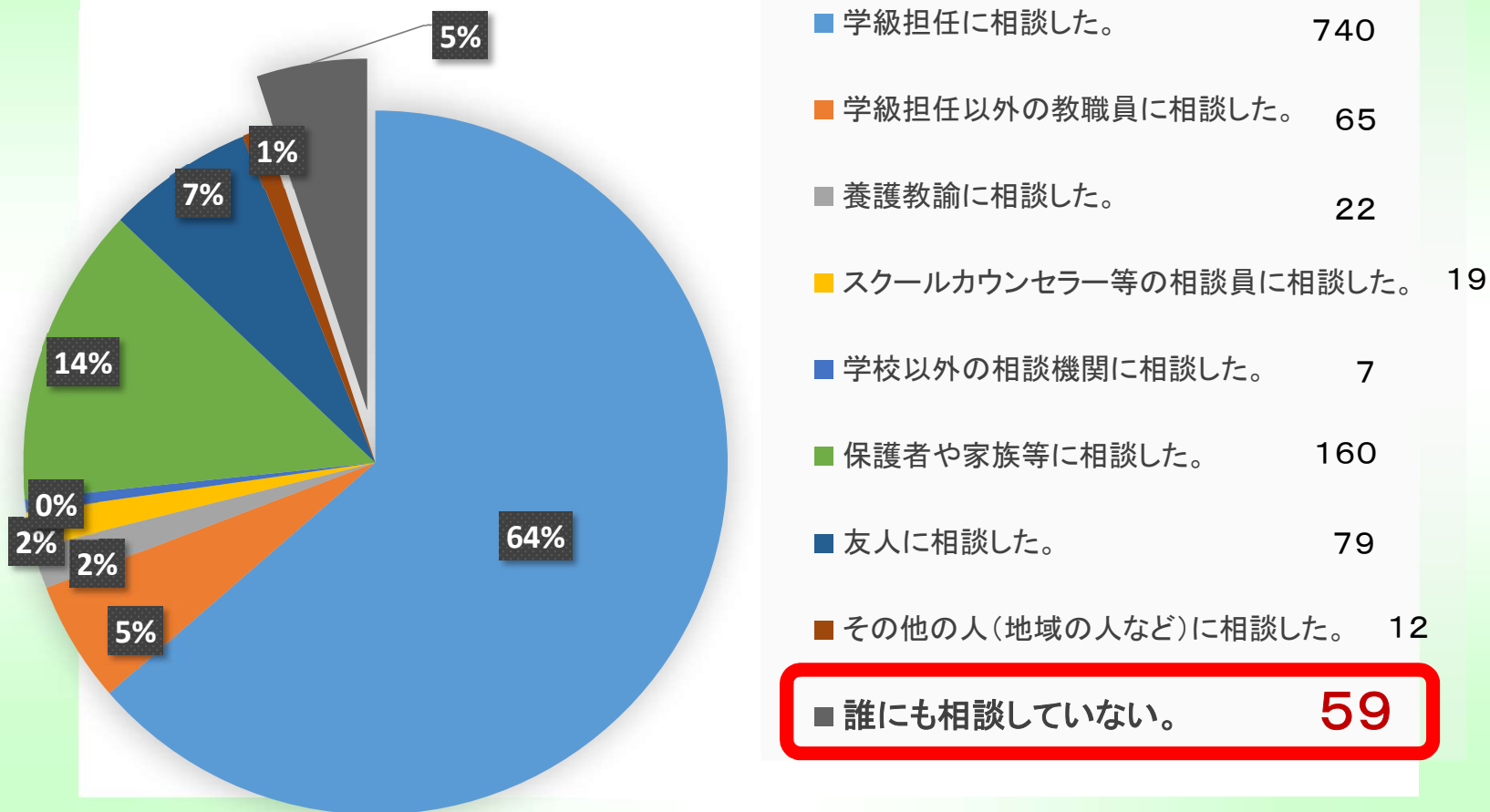


成果と課題

成果①いじめられた生徒の相談状況（中学校）



【再掲】いじめられた生徒の相談状況(中学校)



成果②

○傍観者に視点を当てた授業の中でアプリを紹介することで、**学校と教育委員会が連携**して、いじめの解決に向けて取り組むことができる。

【相談例】

「友だちが陰口を叩かれていて、泣いているところをよく見ます。助けてあげたいけど、何もできません。何か助けてあげられる方法はありませんか」

脱傍観者の意識

児童生徒課・少年補導センター各相談活動状況（件数）

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度 (6月末時点)
やまびこ電話相談	366	263	206	83
少年相談	167	126	152	35
いじめeメール相談	5	1	2	2
STANDBY	133	124	101	83
合計	671	514	461	203

今年度、STANDBYの相談件数の増加ペースがはやい
いじめ以外の多様な相談内容が多くなっている

令和3年度 相談状況



相談件数 **101** 件（令和3年度）

中1：40件 中2：34件 中3：27件 小6：0件

	R1年度	R2年度	R3年度
1. 本人のいじめについて	22	8	10
2. 本人以外のいじめについて	7	3	13
3. 部活動について	6	2	3
4. ネットトラブルについて	3	1	4
5. 教員の指導について	38	30	12
6. 家庭や生活について	57	10	9
7. 学習について		14	4
8. 学校生活について		15	10
9. 友人関係		20	16
10. 身体的なことについて		3	9
11. その他の相談について		18	11
合計(件)	133	124	101

令和4年度 相談状況

相談件数 **154** 件（7月15日時点）

小6 : 28件

中1 : 101件 中2 : 13件 中3 : 6件

高1 : 1件 高2 : 4件 高3 : 1件



	R4年度
1. 本人のいじめについて	11
2. 本人以外のいじめについて	3
3. 部活動について	6
4. ネットトラブルについて	0
5. 教員の指導について	12
6. 家庭や生活について	14
7. 学習について	9
8. 学校生活について	22
9. 友人関係	32
10. 身体的なことについて	2
11. その他の相談について	43
合計(件)	154

課題

- 多様な相談内容に対応できる相談従事者の必要性。
 - 緊急性を伴う内容であれば、24時間対応が必要な場合があるため、その対応の在り方。
 - 学校等からの問い合わせがあった場合の対応方法。
 - 身近な大人（教職員）につながる相談機能の充実。
 - 児童生徒の人権意識を高め、互いに相談できる環境や教材開発。
- 高校生に対する支援 ⇒ 相談体制の拡充の検討
令和4年度から対応開始